

海外移住 資料館により

日本人の海外移住は150年以上の歴史があります。JICA横浜 海外移住資料館では、海外へ移住し、それぞれの国や地域で新しい文明作りに参加してきた日本人移民の歴史と、日系コミュニティについて広く理解を深めてもらうことを目的に、さまざまな資料を展示しています。

■発行元：JICA横浜 海外移住資料館
神奈川県横浜市中区新港2-3-1 JICA横浜2階
Tel:045-663-3257(代)
URL: <https://www.jica.go.jp/domestic/jomm/index.html>
■編集発行人：JICA横浜 海外移住資料館 館長 大野 裕枝

特集

戦争と日系人 ～偏見や差別との闘い～



アメリカ陸軍第100歩兵大隊の日系二世兵士
イタリアのサレルノ近くにて(1944年)
(U.S. Army)

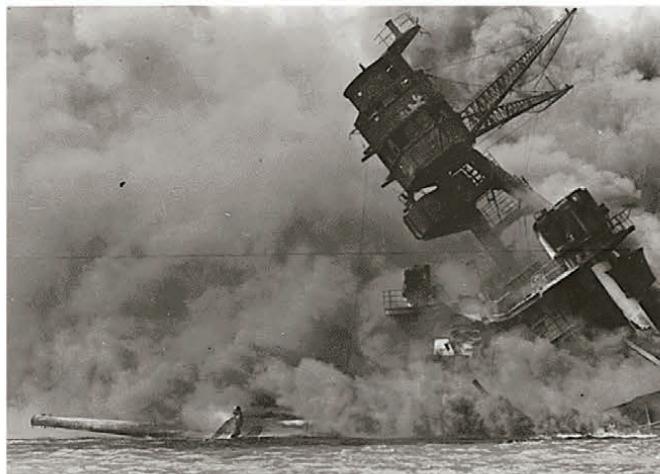
戦争と日系人～偏見や差別との闘い～

「戦争」。それは、どこか遠い国で起きている、私たちの日常とは関わりのない出来事でしょうか？今、この現実の世界で、対立や分断、差別、憎しみの連鎖を生み出す戦争が、現在進行形で起こっているという事実に、私たちは何を思い、どう向き合うべきなのでしょうか。

今号の特集では、日系人がかつて戦争によって経験した偏見や差別の歴史を振り返ります。偏見や差別は戦争に限ったことではなく、実は私たちの身近な生活にも潜んではいないでしょか。同じ過ちを繰り返さないために、過去から何を学ぶのか。当館の常設展示を中心に、一緒に考えてみませんか？

第二次世界大戦の勃発と真珠湾攻撃

1930年代。世界は深刻な経済恐慌の時代へと突入し、国際社会間の緊張が高まっていました。多くの国が領土拡張と資源確保のために争う中、1939年9月3日、ナチス党が台頭し強引に領土拡大を進めるドイツに対し、イギリスとフランスが宣戦を布告。ヨーロッパで第二次世界大戦が始まります。



日本軍の真珠湾攻撃によって炎上する戦艦アリゾナ(National Archives)

中国と戦争状態にあった日本は日独伊三国同盟を締結し、中国を支援するアメリカ・イギリスとの対立を深めていました。日本は東南アジア諸国への侵攻を進める南



空母の甲板で攻撃の準備をする日本軍の爆撃機
(National Archives)

方作戦にアメリカ軍が介入してくることを危惧し、米太平洋艦隊の基地であったハワイの真珠湾を奇襲攻撃することを計画。1941年12月7日の朝(ハワイ時間)、ハワイ近海に接近した6隻の日本海軍空母から爆撃機、雷撃機、戦闘機を発進させて、真珠湾に停泊していた艦船と周辺の米軍飛行場などを次々と破壊したのです。この真珠湾攻撃によって、日本とアメリカは太平洋戦争に突入することとなりました。

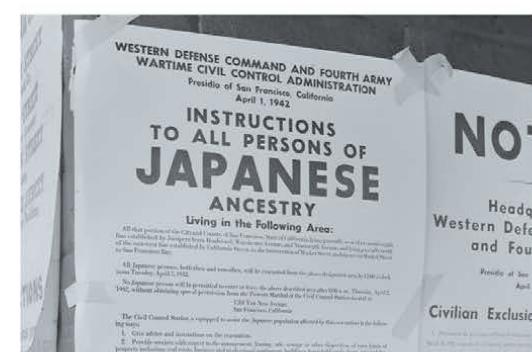
当時のハワイは、人口の約4割を日系人が占めています。社会的にも経済的にもハワイで重要な役割を担い、一市民として普通の生活を送っていた日系人ですが、たった一夜にして敵国民として疑いの目を向けられることになったのでした。

戦争に翻弄された日系の人々

真珠湾攻撃によって、ハワイのみならず当時アメリカ本土にいた日系人も、アメリカの「敵」とみなされるようになりました。日本国籍を持つ一世だけでなく、アメリカで生まれ育ち、アメリカの市民権(国籍)を持つ二世までもが「敵性外国人」として扱われ、人種差別の対象となつたのです。

1942年2月、ローズベルト大統領は「国防上必要がある場合に強制的に『外国人』を隔離することを承認する行政命令9066号に署名します。これにより西海岸地域で暮らしていた約12万人の日系人は、ただちに立ち退くことを言い渡されました。立ち退きのために与えられた準備期間はごくわずか。スーツケースやかばんに最低限の荷物を詰めただけの状態で、近隣の競馬場などに設置された仮収容所に一時的に収容された日系人は、その後、人里離れた内陸部の強制収容所へと移送されました。多くの日系人が、土地や家、車などの財産を放棄したり、二束三文で売却したりせざるを得ませんでした。

収容所は、砂漠のなかのヒラ・リバー(アリゾナ州)、湿地帯のジェローム(アーカンソー州)、そして極寒のハート・マウンテン(ワ



街中に張り出された日系人に対する強制退去勧告。
「告知:日本人を祖先に持つすべての人へ」と書かれ、「日本人」の文字が強調されている。
(National Archives)

イオミング州)のように、自然環境の厳しいところも少なくありませんでした。簡素なバラック小屋には隙間風が吹き、部屋の中にまで砂が入り込むような所もありました。収容された人々は、有刺鉄線で外部と隔てられ、銃を持っ



1942年、カリフォルニア州のマンザナー収容所への列車に乗り込む日系の人々
(National Archives)

た警備員によって常に監視される生活を送ることとなりました。

日系人が強制収容された一方で、この戦争で同じように「敵性外国人」となったドイツ人、イタリア人については、危険視された一部の人々が逮捕・拘留されただけでした。このことは、アメリカ本土での立ち退きが、必ずしも「軍事上の必要性」によるものではなく、人種差別によるものであったことを物語っています。

同様の強制収容は、アメリカ合衆国だけでなく、カナダやオーストラリアでも行われました。また、中南米でも日系人が拘束・収容されたり、メキシコやペルーからアメリカへ強制連行されたりしました。



収容所へ向かう日系の家族
(National Archives)

混乱を招いた「忠誠登録」

1943年2月、米陸軍省とWRA(戦時転住局)が合同で、収容所内の日系人に對し、アメリカ合衆国への忠誠心を問う「忠誠登録」を行いました。アメリカ合衆国への忠誠心が認められる者には、収容所から出て内陸部の地区に転住することを許可したり、アメリカ軍兵士として闘う意思のある二世を集めたりすると共に、忠誠心のない人物をふるいにかけて隔離することが目的でした。忠誠を認められるためには、次の2つの問い合わせ(和訳)に、どちらも「Yes」と回答する必要があり、どちらかひとつでも「No」と回答す

問27: あなたは、命令があった場合、アメリカ軍として戦闘に従事する意思があるか。

問28: あなたは、アメリカ合衆国への無条件の忠誠を誓い、アメリカが国内外のいかなる敵対勢力に攻撃された場合でも、アメリカを忠実に防衛し、そして日本の天皇や諸外国の政府、勢力、組織への忠誠を断固として拒否するか。

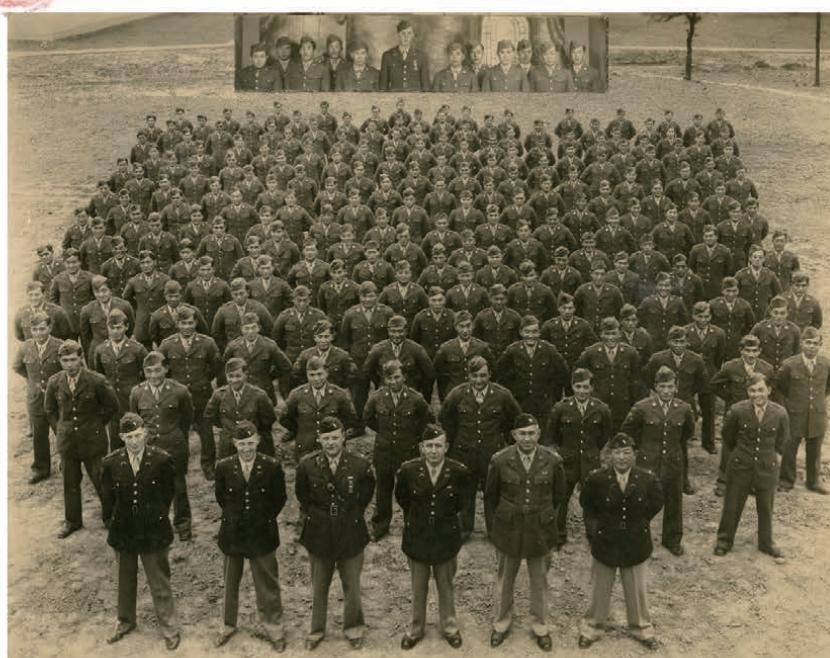
ると「不忠誠」とみなされました。

両方の問い合わせに「Yes」と答えて忠誠が認められた日系人は、西海岸以外の地域に転住し、進学・就職の道を模索できるようになりました。しかしその一方で、二世の中には民主主義国家であるはずのアメリカで、このような市民権の侵害が行なわれることにショックを受け、質問27に反発する者もいました。また、日本生まれで日本国籍を持つ一世の多くは、質問28に「Yes」と答えることに大きな抵抗があり、家族の中で意見が分かれ、対立してしまったこともあります。理由はさまざまですが、どちらの質問にも「No」と答えざるを得なかった人たちも多くいたために、この忠誠登録は収容所内に大きな混乱をもたらしました。そして、「不忠誠」とみなされた日系人は、ツールレイク収容所(カリフォルニア州)へと移され隔離されたのでした。終戦まで拘留され、その後日本に強制送還された人たちもいました。



極寒のハートマウンテン収容所(ワイオミング州)。多くの収容所が、自然環境の厳しい人里離れた場所に設置されていた。

偏見や差別とも戦った日系人部隊の貢献とは



ハワイの日系二世で構成された第100大隊

ハワイの沿岸警備についていたハワイ州兵第298連隊、第299連隊には、あわせて1,432人の日系人が所属していました。日本軍の真珠湾攻撃後、安全保障上の脅威とみなされた彼らは武装解除され、行先も知らず船で米本土へ送られます。彼らは第100歩兵大隊(以下、第100大隊)と命名された日系人部隊となり、ウィスコンシン州の米軍訓練施設キャンプマッコイで厳しい訓練を受けます。アメリカに忠誠を示す機会を得た二世兵士たちはアメリカ陸軍の中でも最精鋭の部隊に成長し、第100大隊はイタリア戦線に投入されます。

さらに、1943年、ハワイから3,000人、アメリカ本土から1,500人の日系人兵士を募集して第442連隊戦闘団(以下、第442連隊)が編成されました。ハワイからは約1万人が応募。アメリカ本土では強制収容所からの志願でした。

第442連隊はイタリア戦線で第100大隊と合流。第100大隊は442連隊に編入されます。第442連隊はドイツ軍と戦い、多大な犠牲を出しながらも連合軍のローマ占領に貢献しました。その



キャンプマッコイで訓練中の第100大隊の日系兵士たち。キャンプマッコイは以前、強制収容所としても使われていた。

後、フランスの山中でドイツ軍に包囲され孤立したテキサス州兵211人を、それを大きく上回る800人以上の死傷者を出しながら救出した作戦は、第442連隊の名声を不動のものとしました。

ヨーロッパ戦線から帰国しホワイトハウスに招かれた第442連隊に対し、トルーマン大統領は「諸君は敵と戦っただけでなく、偏見とも戦い、そして勝ったのだ」と演説しています。

1945(昭和20)年、日本がポツダム宣言を受諾し、第二次世界大戦は終結します。日本はGHQ(General Headquarters:連合国軍最高司令官総司令部)の管理下に置かれ、進駐軍に配属されたMIS(Military Intelligence Service:陸軍情報部)兵の中には、ハワイ出身の日系二世が多く含まれていました。

ブラジルで 起きた悲劇 ～勝ち組・負け組抗争～

戦時下的ブラジルでも、公の場での日本語の使用禁止や日本語学校の閉鎖、邦字新聞の廃刊など、移住者・日系人の生活は監視・制限されました。日本語で情報を得ることが困難となり、ポルトガル語が堪能ではない一世の間では、戦後、日本が戦争に勝利したと信じる「勝ち組」と、日本の敗戦を受け止める「負け組」との間で争いが勃発しました。両者の間にできた溝は埋まらず、結果として数十名もの死者を出すほどの事件を引き起こしてしまったことは、戦争が生んだもう一つの悲劇と言えるでしょう。

「勝ち組・負け組抗争」については、当館常設展示でも詳しく紹介しています。

偏見や差別と向き合った 俳優ジョージ・タケイと政治家ノーマン・ミネタ

当館常設展示の最後は、二人の米日系二世のインタビュー映像で締めくくられています。一人は、俳優として成功したジョージ・タケイ。もう一人はアメリカ政府で日系人初の閣僚として商務長官、運輸長官を務めたノーマン・ミネタです。

タケイは、テレビドラマ「スター・トレック」で宇宙船エンタープライズ号の操縦士ヒカル・スルーとして、レギュラーメンバーとなり、ドラマと同じキャストで6作製作された映画にも出演。ハリウッドスターとなり、ウォーク・オブ・フェイムにもその名を刻みました。

ミネタは、「日系米国人市民連盟」(JACL)が展開した、米政府に戦時中の日系人の強制収容に対する謝罪と補償を要求する運動のさ中、74年に下院議員に当選し、その法整備に尽力します。法案は88年、レーガン大統領が署名して「市民の自由法」として成立。強制収容された日系人に対する一人2万ドルの補償に加え、大統領・連邦議会からの正式な謝罪*と、人種差別をなくすための基金が創設されました。

二人に共通するのは、幼少時の強制収容所体験です。ミネタは、日本軍の真珠湾攻撃直後、FBIが自宅を訪ねてきたことや、貨物ヤードから列車に乗せられ、少年野球のバットさえ殺傷可能な武器であると没収されたことを、また二人ともに、自然環境が厳しく、プライバシーのない収容所での生活を語っています。

その二人の経験は、2001年9月11日に起きた、アメリカ同時多発テロ事件の際に、それぞれが取った行動に大いに反映されることになるのです。

当時、全米日系人博物館の理事長を務めていたタケイは、アラブ系住民との連帯を表明し、反差別のキャンペーンを展開します。ミネタは、当時の運輸長官で、米国内を飛んでいた全飛行機を緊急着陸させ、その後、飛行再開に向けた安全確保のため、どのような体制を取るべきかを連邦航空安全局スタッフ6人を呼び寄せ検討したことについて、緊迫感を持って語っています。

ミネタは、特定の人種を選別し、検査を行う「人種プロファイリング」を否定。全乗客に対する徹底した検査という方法で対処したのです。

タケイはその後、自身の強制収容所体験を基にしたミュージカル「アリージャンス(忠誠)」を作成し自らも出演。2015年にはブロードウェイでも上演されました。ミネタも、全米日系人博物館の理事長を2022年に亡くなるまで務めています。



シリーズ完結編となる映画「スター・トレックVI 未知の世界」(1991年)でタケイ演ずるスルーは、最新鋭の宇宙船エクセルシオールの艦長となった。© Paramount Pictures



ブッシュ大統領より、民間人に与えられる米国最高の栄誉である大統領自由勲章を授与されるミネタ(2006年)
(George W. Bush White House Archives)



米国同時多発テロ後の2001年9月13日、閣議で意見を述べるミネタ(National Archives)

*カナダ政府も1988年に戦時中の日系人の強制収容と財産の没収等が不当であったことを認め、謝罪と補償が実現。
ペルーでも日系人をアメリカの収容所に送ったことを2011年に大統領が公式に謝罪しました。

フィリピンの日系人とは？～残留日本人とその子孫たち～



フィリピンやインドネシア、ミクロネシアなど、アジア・オセアニア地域にも日系社会が存在することをご存じでしょうか？

当館では今年4月、フィリピン・ダバオ市にあるミンダナオ国際大学学長やフィリピン日系人連合会会長など様々な立場で活躍されている日系三世のイネス・山之内・P・マリヤリ氏をお招きし、フィリピンの日系人についてお話をいただきました。戦前フィリピンに移住し、戦争に巻き込まれ日本に戻ることができなかった「残留日本人」とその子孫である「日系人」は戦後、身分を隠して来ざるを得ませんでした。フィリピン日系社会の歴史と現在についてお話をいただいた講演の様子は現在、YouTube(JICAchannel)で公開中。ぜひご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=hcxfJ9Evc88>





ケネディ大統領、ジョンソン副大統領と(Daniel K. Inoue Institute)

ダニエル・ケン・イノウエは、1924年、ハワイのホノルルで生まれました。

ハワイ大学の医学生だった1941年12月7日(ハワイ時間)に、日本が真珠湾を奇襲。1943年にアメリカ軍に志願して、日系二世で編成された第442連隊戦闘団に配属され、ヨーロッパの前線で戦います。イタリアにおけるドイツ軍との戦闘で、少尉として小隊を率い、相手の銃撃により右腕を失いながら、自らの危険を省みず戦闘を続け、英雄と称えられました。しかし、医学への道はあきらめざるを得ませんでした。

戦前から、厳しい差別にさらされた日系人の立場を変えるため、47年に除隊後はGIビル(軍を退役した若者に対する奨学金)で政治の道を志し、復学したハワイ大学では政治学を、50年には本土のジョージ・ワシントン大学法科大学院で法律を学びます。卒業後ハワイに戻り、54年に同じヨーロッパ戦線で戦った二世の仲間とセントラル・パシフィック・バンクを設立したのも、日系人の起業を容易にし、社会進出を促すためでした。

54年、準州であったハワイ州議会議員に当選。59年に合衆国

ハワイから志願 442連隊で戦った ダニエル・イノウエ

50番目の州となるのに尽力し、同年合衆国下院議員に、63年には上院議員に当選します。どちらも日系人として初でした。日系人の戦時補償と名誉回復のための法制定に尽力したほか、米政界の重鎮として、日米の外交関係にも大きな影響力を持ちました。日系人の体験を通じてアメリカ社会の人種と文化の多様性を伝える全米日系人博物館の設立にも貢献し理事長も務めました。2010年には、上院副議長に就任。これは、副大統領、下院議長に次ぐ、大統領継承順位第3位であり、亡くなる2012年12月まで、その地位にありました。



442連隊時代のイノウエ



上院副議長として議会を主宰するイノウエ(2010年)
(Daniel K. Inoue Institute)

イノウエの死後、オバマ大統領(当時)は、「アメリカは眞の英雄を失った」と声明の中で述べ、2017年、ホノルル国際空港は、ダニエル・K・イノウエ国際空港に改称されました。



常設展示室

2024年4月 ダニエルイノウエミュージアムが福岡県八女市にオープン

イノウエの祖父母と父親は、1899(明治32)年に福岡県八女郡横山村(現在は八女市上陽町上横山)より、ハワイに移住しました。井上家からの出火で火災となり、村に借金を返済するためであったといいます。

ダニエル・イノウエ・ミュージアムは、その上陽町の入り口、清流星野川にかかる石造りの眼鏡橋、寄口橋のたもとにあります。旧「ほたると石橋の館」をリニューアルし、2024年4月25日にオープンしました。ミュージアム内VRシアターでは、壁面一杯に広がる3面スクリーンで、ハワイの風景や生前のイノウエのスピーチとともに、星野川に架かる石橋群を見ながらの川下りや、ほたるの光でメッセージを描くアトラクションを体験することができます。

常設展示室は、ハワイのダニエル・K・イノウエ・インスティテュートの全面的な協力を得て、イノウエが日本政府より授与された勲一等旭日大綬章や父・兵太郎の帰化申請書(写真)などの資料、ボール

ペンやグラス、アロハシャツなど生前愛用した品々のほか、動画約30本、写真600枚を常時展示しています。

井上家のハワイ移住から始まるイノウエの足跡を示した年表を見ると、横山村への借金は1922年に完済され、翌23年に父・兵太郎は結婚。24年にイノウエは誕生し、60年に米下院議員として初来日。八女を訪ね先祖の墓参を果たしています。

「子供たちに、ルーツを郷里に持つ偉人を身近に感じてほしい」。展示を担当した八女市観光振興課の元村乗子さんは話します。近在の義務教育学校八女市立上陽北済学園では、イノウエの母校ワシントン・ミドルスクールと2022年から姉妹校提携を結び、オンライン交流を定期的に行っています。

本年はイノウエの生誕100年。誕生日である9月7日には、「生誕祭」も計画されています。



隣接するホタルと石橋の里公園に2022年に建立された胸像

ダニエル・イノウエ・ミュージアム

〒834-1102 福岡県八女市上陽町北川内 589-2
TEL.0943-24-8778
<https://daniel-inoue-museum.com/>



2024年4月にオープンしたダニエル・イノウエ・ミュージアム

夏休みイベント情報

体験! 船上運動会 ビン釣り競争に挑戦

移民船では長い船旅のあいだ、様々なイベントが行われていました。その一つが船上運動会です。船上運動会で行われていた種目の一つである「ビン釣り競争」に挑戦し、制限時間内にビン釣りに成功した方には中南米の民芸品をプレゼント。釣れなかった方にも参加賞として当館オリジナルノベルティグッズをプレゼントします。

日 時: 8月31日(土)

14時~17時

参加費: 無 料

予 約: 不 要



<次回企画展示予告>

「Aprendizaje de los miedos (恐怖の習得)」

ペルー日系人アーティスト パツツイ・ヒグチ個展

9月7日(土)~9月29日(日) 主催: 駐日ペルー共和国大使館

* 9月6日(金)にオープニングセレモニー及びギャラリートークを開催します。

詳細はHPをご確認ください。

本年、日本人ペルー移住125周年を迎えるにあたり、記念イベントとして、駐日ペルー共和国大使館主催による企画展示「Aprendizaje de los miedos (恐怖の習得)」を開催します。日系人アーティストとして活躍しているペルー在住のパツツイ・ヒグチ氏は、COVID-19の世界的流行により多くの人が命を落とすなか、人々はどういう恐怖を捉えコントロールし、恐怖を考えることができるかを、実験的かつ思索的な方法で探り、その過程を作品に凝縮しました。

オリジナリティ溢れる日系人アーティストの作品をぜひご覧ください。



Self-Examination III 2020-2021

ミニ
展示

ペルーから 日本へ35年 一環(還)流する人々

10月8日(火)~11月24日(日) (予定)

共催: 駐日ペルー共和国総領事館

在日ペルー社会35年の歴史を振り返るミニ展示を、常設展示場体験学習コーナーで開催します。1990年の入管法改正の前から来日している在日ペルー人の時代背景とともに、日本での生活の様子や、二世の活動などを、パネルや資料、インタビュー動画などで紹介します。多文化共生社会の実現が叫ばれるなか、彼らが目の当たりにしている現実とはどのようなものなのでしょうか。ぜひ彼らの日常をのぞいてみてください。

海外移住資料館 周辺マップ



<閲覧室再開のお知らせ>

JICA横浜では、空調設備の更新と消防設備の設置を目的に、2023年4月から2025年3までの期間、施設の大規模改修工事を実施しています。これに伴い、2023年11月13日(月)より閲覧室を休室とさせていただいておりましたが、2024年8月6日(火)より再開室する運びとなりました。

みなさまのご来室を、心よりお待ちしています。

■みなとみらい線:

「馬車道」駅(4番出口)から徒歩約8分
「みなとみらい」駅(クイーンズスクエア方面改札)から徒歩約15分

■JR線・市営地下鉄:

「桜木町」駅から徒歩約15分
(汽車道→ワールドポーターズ→サークルウォーク)

■バス「あかいくつ」号:

「ハンマーHEAD」から徒歩約2分

●開館時間 10:00~18:00 (入館は17:30まで)

●休館日 月曜日(月曜日が祝祭日の場合は翌日)

●入館料 無料

ア
ク
セ
ス



独立行政法人国際協力機構 横浜センター
海外移住資料館

〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港2丁目3番1号
TEL.045-663-3257 FAX.045-211-1781

<https://www.jica.go.jp/domestic/jomm/index.html>

Eメール
jicayic_jomm_info@jica.go.jp

